©中日新聞東京本社2025

（日刊）

東京新聞

2025年（令和7年）
1月9日
木曜日

中日新聞東京本社
〒100-8505
東京都千代田区内幸町
二丁目1番4号
TEL 03-6910-2211

新聞を人生のパートナーに
お問い合わせ
平日 9:30～17:30
◆紙面への質問・意見
03-6910-2201
◆配達・集金
03-6910-2556
購読も ためしよみも
0120-026-999（おふろで キュキュキュ）
Webでのお申し込み 24時間受付中!

被団協 落胆

核禁会議参加に首相「ゼロ回答」

石破首相（右）と面会する日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の（左から）事務局次長浜住治郎さん、代表委員の箕牧智之さん、田中重光さん、田中熙巳さん＝いずれも8日、首相官邸で（佐藤哲紀撮影）

ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会（被団協）の代表委員田中熙巳（てるみ）さん(92)ら役員8人は8日、受賞後初めて石破茂首相と官邸で面会した。出席者は核廃絶に向けた具体的な行動を求めたが、首相は米国の「核の傘」の必要性など持論を展開しただけで、被爆者らの要望には直接答えなかった。面会後、田中さんは「収穫があったとは受け止めていない」と落胆を隠さなかった。（川田篤志）

平和賞後 初面会

被団協と首相の面会での主な発言

被団協
- 私たちの主張は政府の方針と違うところがある。また話をしたい
- 核兵器禁止条約締約国会議にオブザーバー参加してほしい
- 核兵器がゼロになるまで被爆者は安心して死ねない。一日も早くなくしてほしい
- ノーベル平和賞で評価されたのは、他国との友好、軍縮に向けての運動だ。被爆者の言葉をきちんと聞いてほしい

石破首相
- 日本の周辺国は核を保有している。それに備えなければならない
- 現状はやむを得ないが、究極的には核を廃絶しなければならない

※首相の発言は出席者の説明を集約

首相は会談の冒頭、被団協の平和賞受賞に祝意を示し「今日は皆さんの気持ちを聞かせてもらい、今後の糧にさせていただきたい」と話した。その後、会談は非公開で約30分続いた。

出席者によると、被団協側はそれぞれ2分程度、自身の経験や核不使用の重要性、政府への要望を伝えた。3月に米国で開かれる核兵器禁止条約第3回締約国会議へのオブザーバー参加も求めた。

首相は、将来の核廃絶を目指す思いは同じだと説明したが、核戦力を増強させる中国やロシア、弾道ミサイル発射を繰り返す北朝鮮を念頭に、米国が核を含む戦力で日本防衛に関与する「拡大抑止」の重要性を強調。オブザーバー参加の是非も明言しなかった。

田中さんは「首相の独壇場みたいになってしまった。反論する時間がなく残念だ。世界が被爆者の運動に注目している。首相にしつこく会談を申し入れたい」と強調した。

被団協に平和賞が授与された直後の昨年末、日米両政府が拡大抑止に関する初のガイドライン（指針）を作成。政府は具体的な内容を明らかにしていないが、林芳正官房長官は8日の記者会見で「厳しい安保上の課題に現実的に対応していく観点から、核抑止力を含む米国の拡大抑止の信頼性を強化する意義がある」と説明。日本は「核の傘」への依存を強めている。

田中さんは面会後のオンライン記者会見で、平和賞受賞を受けて、核廃絶に向けた首相の考え方に変化を感じたか問われ、「特に感じられなかった」と断言。被爆80年となる今年の活動について「核兵器に対する批判を世界的に広めていかないといけない」と決意を語った。

石破首相との面会を終え、記者団の取材に応じる被団協代表委員の田中熙巳さん

「一番変わらないのは日本政府」

石破首相との面会に参加した被団協の幹部は、核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加や、国の援護区域外で長崎原爆に遭った「被爆体験者」への施策の充実を求めた。だが石破氏から回答はなかったといい、代表委員の一人、田中重光さん(84)は「ノーベル平和賞を受賞しても、一番変わらないのは日本政府。がっかりだ」と話す。

「援護に積み残しがあり、80年たっても解決していない問題がある」。被爆体験者問題に言及した田中さん。だが、被爆者7人の後に発言した首相は、この問題に触れなかったという。首相は「日本に核シェルターがない」との問題意識を口にしたといい、田中さんは「全く的外れ」「禁止条約の『き』の字も出てこなかった」と批判した。

事務局次長の和田征子さん(81)は「面会の実績をつくりたかっただけなのか」と厳しい見方。一方で「今まで被団協に振り向きもしなかったことを考えると、一歩ではある。引き続き国に働きかけていく」と語った。

とうとう安保論展開 時間切れ

とが分かった。
中国の関心分野が漂約と
の疑いがあるとみている。
サイバー特捜部による
して感染させ、保存データ
などを盗み見ていた可能性

みんなのミカタ
東京新聞140th

貸ビル・保険代理業
新宿西口
雨宮商事合同会社
141ビル
☎03-3342-0141

きょうは何の日

風邪の日

1795年、旧暦のこの日、大相撲の第4代横綱・谷風梶之助がインフルエンザで現役のまま亡くなったことに由来。風邪の正式な呼び名は「風邪症候群」です。

きょうの紙面

商店街がつなぐ復興のバトン ⑲

30年前の阪神大震災からの復興の教訓を、神戸市長田区の茶販売店主が他の被災地に伝え続ける。「まちの復興は商店街から」

価格転嫁巡り下請けいじめ ㉕
日本郵便に公取委が行政指導。コストの価格転嫁を巡り、ゆうパック委託先を買いたたいた下請法違反の疑い。

就任控え「米国第一」発言次々 ③
トランプ次期米大統領が、NATO加盟国の国防費をGDP比2%から5%に引き上げるべきだなどと発言。

100年時代 ⑬

東京脳活 毎日数独＋漢活 ⑫

テレビ・ラジオ ⑨⑪⑫　小説⑤
暮らし⑦　地域ニュース⑭　スポーツ⑮
社説・発言／囲碁・将棋⑤　特報⑬⑰

4910854930957 00127